

2023 年度 岡山県支部 6 月例会 「DX（デジタルトランスフォーメーション）」報告

西部技術コンサルタント株式会社 森川 洋介
技術士（建設部門）



1. 開催概要

- (1) 主催 公益社団法人 日本技術士会 中国本部 岡山支部
- (2) 日時 2023 年 6 月 24 日（土） 13:30～16:30
- (3) 場所 就実大学図書館 5 階 AV ホール
- (4) プログラム
 - ・開会挨拶（公社）日本技術士会中国本部 岡山県支部 事業委員長 露無 誠氏
 - ・講演 1「未来を創造するDX
～DXの推進を阻む障壁を どうやって乗り越えたのか～」
講師：藤原 加奈 氏〔(株)フジワラテクノアート副社長〕
 - ・講演 2「生成 AI の基礎知識と最新事例」
講師：瀬尾 豊 氏〔よろず支援拠点 (IT BASE 代表)〕
 - ・講演 3「身近なデータ活用からはじめるDX」
講師：大島 正美 氏〔(一社)データクレイドル代表理事〕
 - ・閉会挨拶（公社）日本技術士会中国本部 岡山県支部 特別顧問 木口 誠二氏
- (5) 参加者
60 名（講師含む うちオンライン 29 名）

2. 講演概要

(1) 講演 1

「未来を創造するDX ～DXの推進を阻む障壁を どうやって乗り越えたのか～」

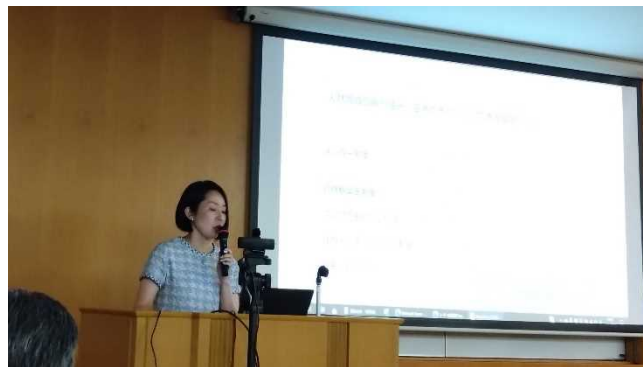
講師：藤原 加奈 氏〔(株)フジワラテクノアート副社長〕

講師の藤原氏が中心となって進められた事業のDX推進について、具体的な実施内容や苦労話をふまえて、「2022年DX大賞」「経済産業省 DXセレクション2023グランプリ」を受賞されるにいたるまでの経緯をご講演いただいた。

DXの抽象的な概念ではなく、事業の付加価値を向上させるために取り組まれた具体的な事例の紹介であったため、腑に落ちるところが多く大変参考になった。本稿では、個別の取組内容を取り上げるだけの紙面の余裕はないが、何のためにDXを推進するのかを明確にし、それを丁寧に時間をかけて関係者全員に説明する。そのうえで、変化による結果を示すことで、個人の自発的な行動変革をうながし取組内容の更なる発展につなげていくということが、取り組みの要諦であった。

まとめてしまえば、簡単なことに聞こえてしまうが、経験や性格等の個人の違いを包括したうえで、事業の長期的な付加価値向上のために、変化をいとわず持続的に人材を育成する。そして、そのための手段としてデジタル技術を活用するという取り組みを継

続的に実践されており、大変なご苦勞が忍ばれるとともに、事業に対する大きな情熱が感じられた。



藤原 加奈氏

(2) 講演 2

「生成 AI の基礎知識と最新事例」

講師：瀬尾 豊 氏〔よろず支援拠点 (IT BASE 代表)〕

昨今話題に上ることが多い、文章生成型の「生成 AI」である「ChatGPT」について、その基幹をなす大規模言語モデル (LLM) が、なぜ実用可能な水準まで進化したのかについて概要を説明していただくとともに、アプリケーションの実際の動作や、使用者がプログラムから意図した回答を得るためのテクニックについて、ご紹介いただいた。

また、文章生成のみならず、画像や動画および音声といった、様々な種類の「生成 AI」についてもご紹介いただき、生成の一例として、「生成 AI」により一枚のご自身の写真から生成した、瀬尾様があたかもコメントしているかのような動画も提示していただいた。もちろん、目が一点を見詰めていて多少の不自然さがあるといった動画ではあったものの、一枚の写真から生成されたことを考えれば、驚異的なクオリティであった。

これらの「生成 AI」を活用したサービスも次々と出現しており、企業や自治体においても活用の検討に入っているところが多数あるとのことである。「生成 AI」は、用途や使用条件によっては人間の能力を凌駕する可能性のある技術であり、望む望まざるに関わらず、これらの技術と向き合っていく必要があると感じさせる内容であった。



瀬尾 豊氏

(3) 講演 3

「身近なデータ活用からはじめるDX」

講師：大島 正美 氏 [(一社)データクレイドル代表理事]

「官民共同とデータ活用による、地域の課題解決・活性化、DX 推進に資するひとづくり、まちづくり、しごとづくり」の観点より、山口県で事務局として携わられた「中小企業デジタルトランスフォーメーション研究会」での研究成果（「DX の手引き」）や、データの利活用に資するオープンデータの活用方法等について、ご講演いただいた。

DX 推進にあたっては、データの連係・活用が重要であり、データを全体最適で活用できることが求められる。企業が事業を行うにあたって全体最適を考えたときに、部門を超えて全社での最適を求めることが出発点であり、次のステップとしては、社外とのデータ連係・活用の最適を目指す必要があるとの説明であった。

また、データの活用にあたっては、効率的なデータ収集の観点より、オープンデータの更なる活用が有効であることを、実際に使用可能なオープンデータの紹介とともにご説明いただいた。

極論すれば、DX の推進とは、企業および事業の付加価値を向上するために、デジタル技術を駆使して大量のデータを収集・処理・利活用することに他ならない。データを収集する目的、方法そして着目点等について、様々な角度から柔軟に物事を捉える重要性に気付かされる講演であった。



大島 正美氏

3. おわりに

本例会においては、3名の講師に講演していただいたが、どの講演も時流に即した非常に興味深いものであった。しかし、講師の方が講演の中で、「少し古い資料ですが」と、2～3年前のデータを示されていたことに象徴されるように、最新の話題であるとともに更新し続けることを求められる技術や方法論の話である。

このような変革に追従できるよう、受講者である我々も、継続的な変化を求められるとの認識を新たにしたい。